

第2回 福島市中心市街地将来ビジョン検討委員会



と き 平成30年7月5日 (木)

ところ 福島テルサ3F (あづま)

(1) 第1回検討委員会の振り返り

①委員からの意見（後日、提出されたものを含む）

◆必要な都市機能について

- ・ 中心市街地に拠点（核）をつくる必要がある
- ・ コンベンション機能におけるターゲットを明確にする必要がある
（現状では、国際会議における国賓級の方を対象とした宿泊受け入れは難しい）
- ・ コンベンション機能に対応した宿泊施設を強化する必要がある
- ・ 複合機能（フードコート、図書館等）を有するサッカー場の設置を検討する必要がある
- ・ 街なかの駐車場を強化する必要がある

◆回遊性の強化について

- ・ 東西自由通路の利便性向上が必要である
(バリアフリー対応とEV稼働時間の延長など)
- ・ 東西自由通路の整備検討が必要である
- ・ 駅西口と東口の連絡が悪い
(2020東京オリンピック・パラリンピック開催までに案内サイン等の改善が必要である)
- ・ こむこむ館から中合にかけての回遊性の強化が必要である

◆中心市街地のまちづくりについて

- ・再開発の動きは最大のチャンス、実現に向け、みんなで取り組みを推進する必要がある
- ・駅前再開発の動きを重視（民間活力の活用）する必要がある
- ・福島市の大学生（福島大学、福島県立医科大学、桜の聖母短期大学、福島学院大学、福島学院短期大学）とまちづくりを考える必要がある
- ・わくわくするものが足りない
- ・若者が集まれるようにしなければならないが、将来に負の遺産を残すべきではない
- ・ここで住み子育てを行うための環境整備をする必要がある
（きれいな授乳施設の設置など）

◆その他の意見について

- ・ インターンシップを活用した活性化・定住促進が必要である
- ・ 本社機能を有する企業誘致が必要である
- ・ 社員の家族を含む居住促進のため、教育環境の充実が必要である
- ・ 東京間のアクセスの良さを生かし、交流人口の拡大が重要である
- ・ 機能整備においては、スケジュール感を持ちながら議論する必要がある

②質問事項について

「風格ある県都ふくしま」とは

「県都として高次の都市機能を集積し、県北全域の活性化と定住交流の拠点であると共に、文化的環境と次世代環境も備えたグレードの高いまち」と捉えている。

県都の顔である福島駅周辺の中心市街地について、新たな視点で賑わいと活力の創出に取り組むと共に、県北圏域等との広域的な連携を強化し、県全体の復興・創生に貢献できる県都を目指す。

◆公共交通機関乗降者データ

H23以降は、年間乗降客数は延びている

＜福島駅（JR線・福島交通飯坂線・阿武隈急行）利用者数の推移＞

		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
年間 乗降客数 (万人)	JR線 (年間)	516.9	526.3	579.2	610.5	647.0	607.9	603.6	
	福島交通飯坂線 (年間)	159.6	139.9	149.6	151.4	151.4	164.5	175.0	166.4
	阿武隈急行 (年間)	142.6	120.8	152.3	157.3	158.2	158.0	152.9	148.5
	計	819.1	787.0	881.2	919.2	956.6	930.3	931.5	314.9
1日平均 乗降客数 (人)	JR線 (1日平均)	14,161	14,380	15,869	16,726	17,725	16,608	16,536	
	福島交通飯坂線 (1日平均)	4,373	3,821	4,099	4,148	4,148	4,494	4,794	4,558
	阿武隈急行 (1日平均)	3,906	3,301	4,172	4,309	4,335	4,316	4,190	4,067
	計	22,440	21,502	24,140	25,183	26,208	25,418	25,520	8,625

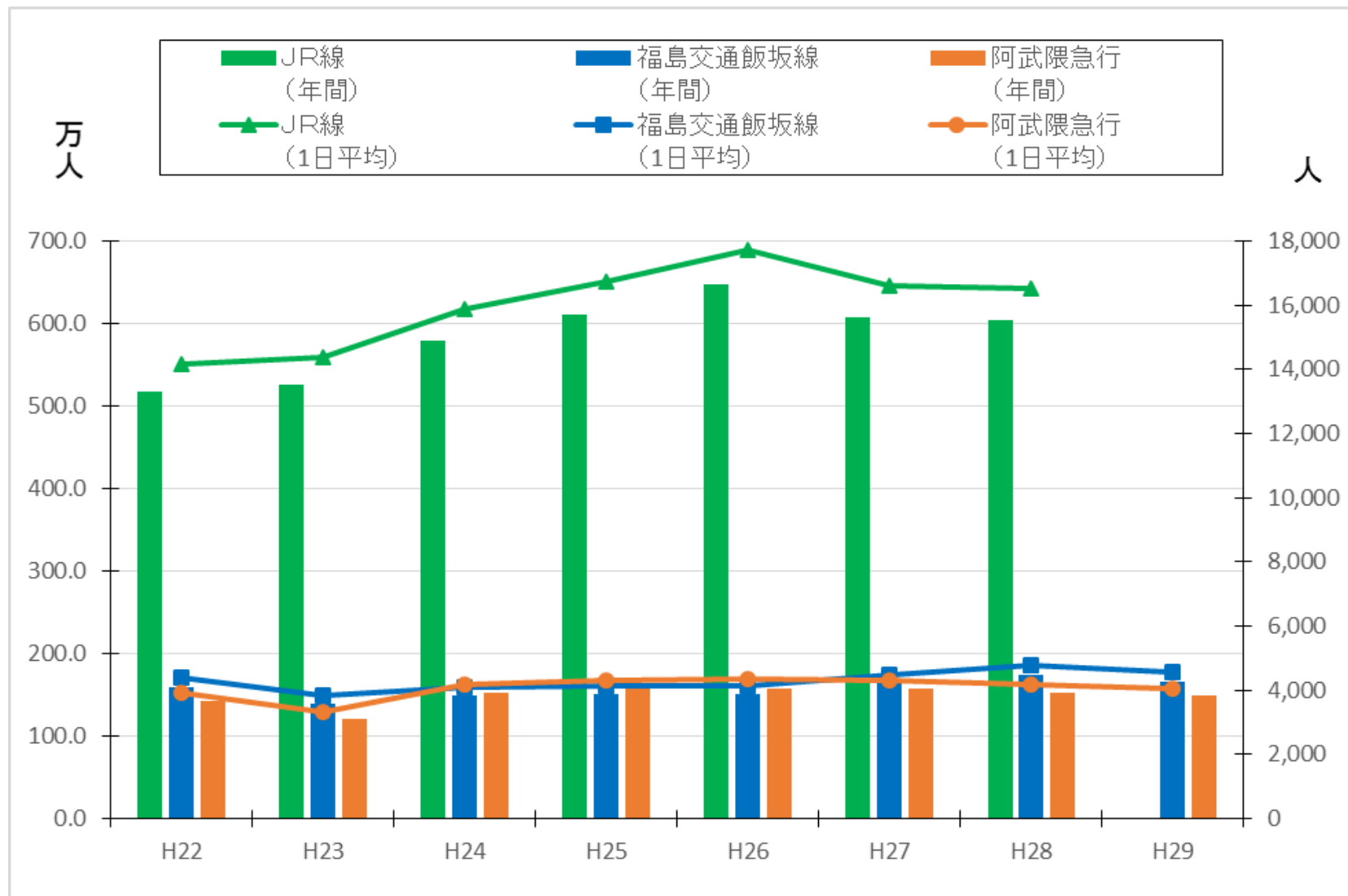
※JR線のデータに関して、前資料記載数値は「乗車数」のため、倍掛けし「乗降数」としてしています。

※JR線のデータは、ウェブサイト掲載の1日平均乗客数を、年度日数分掛けて年間数値を算出しています。

※福島交通飯坂線および阿武隈急行のデータは、各社提供の年間乗降客数値を、年度日数で割って一日平均値を算出しています。

※H29のJR線については、ウェブサイトに未掲載であるため、空欄としています。

H23以降は、年間乗降客数は延びている



(参考)

③ 学生からの意見（石井委員より資料提供）

平成29年 第1回福島市の未来を高校生で考えるまちづくりワークショップ

主催：福島商工会議所（復興・創生委員会）

一般社団法人 Bridge for Fukushima

参会者：福島大学、福島高校、福島南高校、福島明成高校、

安積高校 計 12名

開催日：平成29年12月19日（火）

◆主な意見

- ・ 学生にとって図書館の一番重要な機能は学習スペースであるため、広い学習スペースがある図書館が駅前にあるとよい
- ・ 勉強スペースやオープンスペースなど学生が安心して集まれる場所があるとよい
- ・ 案内板などの情報が更新されていない
- ・ 学生も大人も街の中心のイメージは駅前通りだが、実際に学生が行くのは駅なか（S-PAL）やMAX⇒世代間にギャップがある
- ・ 飲み屋に挟まれブティックがあるなど、街なみが不調和である
- ・ 中合に高校生が立ち寄れる店があればよい
- ・ 福島市は居酒屋やブティック、プラモデル屋などが混在しており、まち全体が高校生にとって歩きづらい印象を与えている

(2) 今後のまちづくりの検討項目について

■ 中心市街地のまちづくりにおける課題

(第1回検討委員会の意見を受けて修正)

A 駅周辺の魅力形成について

- ・ 駅に近い優れた立地性を生かした**都市機能の集積**が必要
- ・ **国際化に対応**した広域的な高次都市機能が必要
- ・ 東西をつなぐ新東西自由通路の連携強化が必要
- ・ 施設とそれぞれの施設が連携した**回遊環境整備**が必要
- ・ 地域特性を生かした通りの形成が必要

B コンパクトなまちづくりについて

- ・ 既存公共施設の再編整備にあわせた機能配置の検討が必要
- ・ 駅東口・西口の特性を生かした役割分担が必要

C 街なか居住について

- ・ 駅に近い優れた立地性を生かした居住環境整備が必要
- ・ 若者・従業者等の街なか居住を促進する取り組みが必要
- ・ 定住支援対策が必要

D 実現に向けて

- ・ **民間活力の活用が必要**
- ・ 官と民が連携した事業の推進が必要
- ・ 民間需要を喚起するための継続的な取り組みが必要
- ・ **市民協働のまちづくりが必要**

■ 中心市街地のまちづくりの課題から「6項目」の視点で分類する

- ① 新たな国際化に対応した広域コンベンション機能強化について
- ② 駅周辺の立地・特性を生かした新たな賑わい創出について
- ③ 駅周辺を拠点とした回遊性の強化について
- ④ コンパクトなまちづくりについて
- ⑤ 快適に暮らせる街なか居住の促進について
- ⑥ 多様な主体との参画・連携によるまちづくりについて

①新たな国際化に対応した広域コンベンション機能強化について

<市の考え方>

- 広域コンベンション機能（ホール・会議室）の強化を図る
- 既存のコンベンション機能と連携を図る

<主な検討内容>

- ▶ 国際化に対応した広域コンベンション機能の強化により、賑わいの創出と交流人口の拡大を図る
- ▶ 国内外の各種団体や学会等の比較的大規模な会議に対応した機能の強化により、賑わいの創出と交流人口の拡大を図る
- ▶ コンベンション機能を有する宿泊・バンケット機能の強化を図るとともに観光地や温泉街等との連携を図る

② 駅周辺の立地・特性を生かした新たな賑わい創出について

<市の考え方>

- 魅力ある商業機能の促進を図る
- 教育文化機能の強化を図る
- 集客と情報発信の強化を図る
- スポーツ・アミューズメント機能の強化を図る

＜主な検討内容＞

- ▶ これまであった百貨店の撤退により賑わいが失われつつあるため、新たなニーズに対応した商業機能を促進し賑わい創出を図る
- ▶ テーマ型専門ショップや若年層向けショップ、郷土料理や地元食材を活用した飲食店等で形成する回遊性のある商業集積など、特色ある商業機能を促進し賑わい創出を図る
- ▶ 公共施設の再編整備における施設の統合・複合化により適正な配置を検討し、教育文化機能の強化を行い交流人口の拡大と賑わい創出を図る
- ▶ 「震災からの復興」をアピールするとともに、観光やイベント情報を発信するため、情報板等の設置検討を行い情報発信の強化を図る
- ▶ スポーツ文化の向上、賑わい創出、交流人口の拡大を目指し、スポーツ・アミューズメント機能の強化を図る

③ 駅周辺を拠点とした回遊性の強化について

＜市の考え方＞

- 新東西自由通路による駅東西の回遊性の強化を図る
- 駅や拠点施設などを結ぶ動線軸の強化を図る
- 安全で快適な歩行者環境の強化を図る
- インバウンドなどに対応した案内サインの改善を図る
- 優れた眺望と調和した街なみの形成を図る
- 既存資源を活用したソフト施策の強化を図る

＜主な検討内容＞

- ▶ 新東西自由通路の整備により、駅利用者や歩行者の利便性の向上を図るとともに、ユニバーサルデザインの理念に基づくバリアフリー化により安全で快適な歩行環境の強化を図る
- ▶ 福島駅東西を結ぶ新東西自由通路等の整備により都市施設の連携を強化し、魅力的で賑わいのあるまちづくりを推進する
- ▶ 駅や拠点施設など結ぶ道路について、統一感のある街なみ景観の整備による、魅力的な動線軸（シンボルストリート）の形成を図る
- ▶ 計画的に駐車場整備を促進し、自動車利用の円滑化や歩行者の安全確保を図る
- ▶ インバウンドや市内外からの来訪者に対して、分かりやすい案内や誘導を行うため、案内サインの改善を図る
- ▶ 吾妻連峰、阿武隈山系、信夫山、花見山等の優れた眺望と調和した街なみの形成を図る
- ▶ 歴史、文化、阿武隈川や荒川の水辺空間等の既存資源を活用した、街なか観光の促進や年間を通じた集客イベント等ソフト施策の強化による集客力の向上・賑わい創出を図る

④コンパクトなまちづくりについて

<市の考え方>

- 公共施設の再編整備においては、交流人口の拡大と賑わいの創出を図る
- 福島駅東口・西口の連携による魅力強化を図る

<主な検討内容>

- ▶ 公共施設の再編整備における施設の統合・複合化により適正な配置を検討し、交流人口の拡大と賑わいの創出を図る
- ▶ 福島駅東口・西口における土地利用状況や都市機能の集積状況における特性を生かした役割分担と連携により魅力強化を図る

⑤快適に暮らせる街なか居住の促進について

<市の考え方>

- 安心して快適に暮らせる居住促進を図る
- 高齢者・若者等の居住促進を図る
- 安心して子育てができる環境づくりを図る

<主な検討内容>

- ▶ 高齢者、若者や子育て層が安心して快適に暮らせる都心居住を促進する
- ▶ 都心居住を支える生活関連施設や医療・福祉機能の充実を図る
- ▶ 乳幼児に配慮したトイレの設置や託児室などの施設整備や一時預かりなど、安心して子育てができる環境づくりを図る
- ▶ 快適に暮らせる居住環境の形成のため、広場やポケットパーク等の整備を図る

⑥多様な主体との参画・連携によるまちづくり

<市の考え方>

- 民間活力を活用し官と民が連携した事業の検討・推進を図る
- 市民参加・協働によるまちづくりを図る

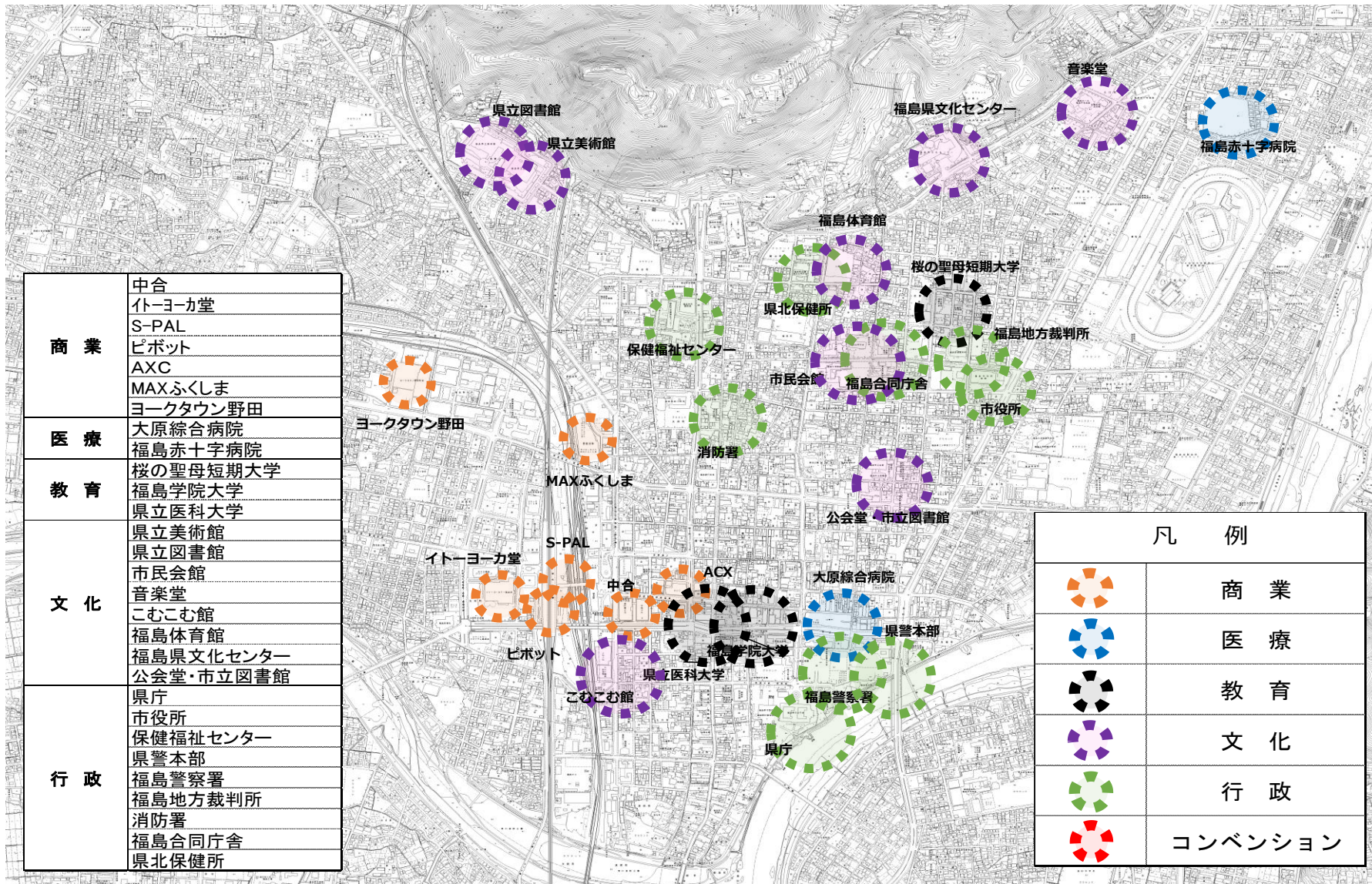
<主な検討内容>

- ▶ 民間企業・NPO・住民等の多様な主体の参画・連携を促す
- ▶ 財源負担等を考慮し、公共投資をできる限り抑制しつつ効率的かつ効果的に公共サービスを提供する
- ▶ 市民と行政がまちづくりの情報を共有し、それぞれの役割と責任を担いながら対等な関係で互いに協力してまちづくりを進める

(参考)

第2回福島市公共施設の戦略的再編整備検討委員会

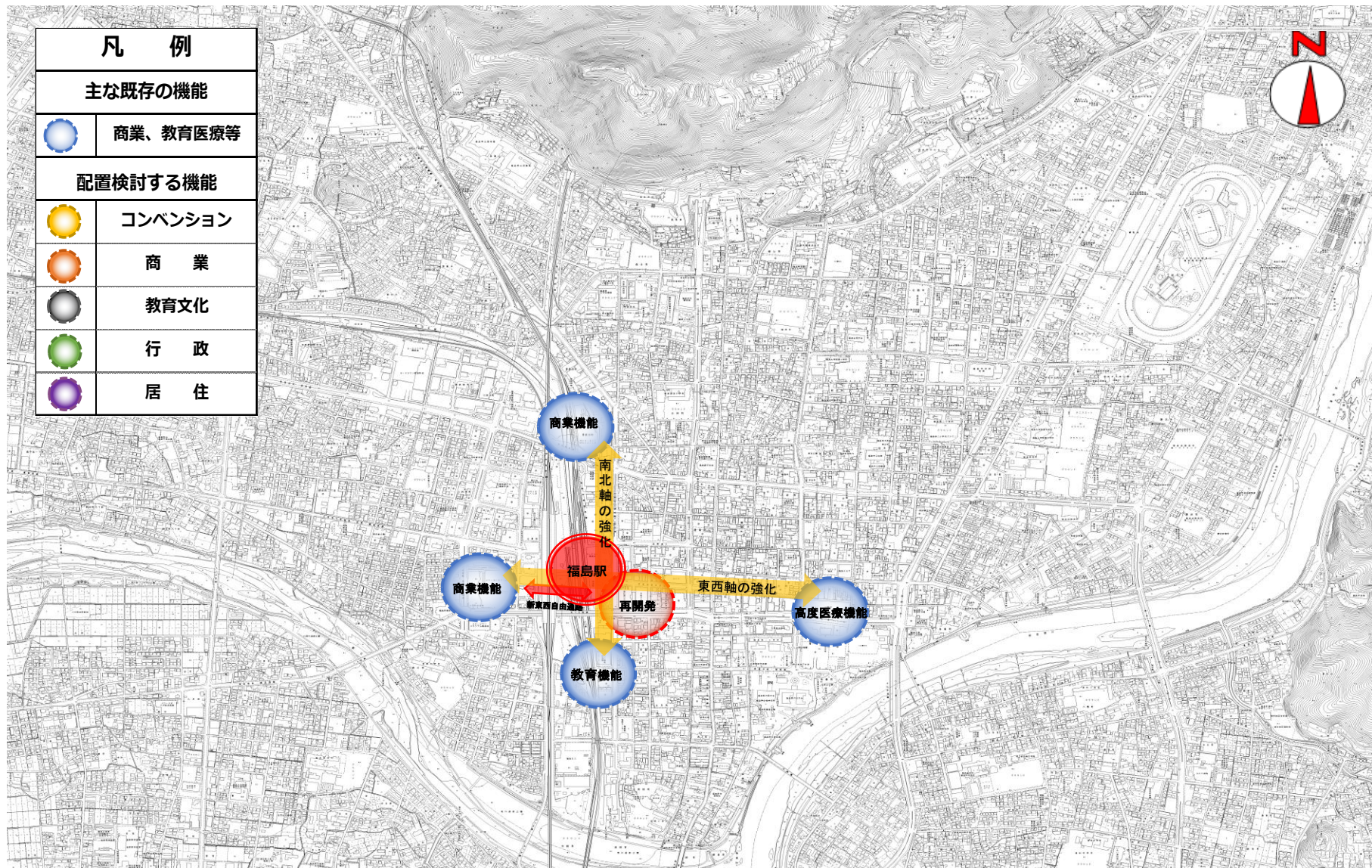
(3) 現在の高次都市機能の配置について



◆中心市街地の高次都市機能（施設）状況

区分	施設名	備考
商業	中合、イトーヨーカ堂、エスパル、MAXふくしま、ヨークタウン野田、ピボット、AXC 等	これまでにあった、長崎屋、コルニエツタヤ、中合式番館の撤退
医療	大原総合病院、福島赤十字病院（※地域医療支援病院）	大原総合病院、福島赤十字病院の移転新築
教育	桜の聖母短期大学、福島学院大学	県立医科大学の開設（平成33年4月予定）
文化	公会堂・市立図書館、市民会館、音楽堂、福島県文化センター、こむこむ館、県立図書館、県立美術館 等	公会堂の閉館（平成30年4月1日）
行政	市役所、県庁、県警本部、福島警察署、保健福祉センター、福島地方裁判所、福島合同庁舎、消防署、県北保健所 等	市役所本庁舎西棟の建設延期中

(4) 高次都市機能の配置検討について



(5) 次回の検討項目について

- ①都市機能の配置検討（具体的な素案を提示する）**
- ②官と民の役割分担**
- ③優先度の検討**

※次回以降の検討委員会は

第3回 10月 9日（火） 15：00～

開催場所：コラッセふくしま

第4回 11月14日（水） 14：00～

開催場所：コラッセふくしま

を予定しております。

日程調整方よろしく申し上げます。

3 その他

再開発の動向について

- ・ 福島駅東口市街地再開発準備組合

理事長 塚原洋一 様
理事兼事務局長 岡部政美 様

- ・ 内 容 福島駅東口地区市街地再開発事業について